

(様式1)

整理 番号	1	—	3	—	3	4
----------	---	---	---	---	---	---

**平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」
【テーマB】学生支援推進プログラム 申請書（様式）**

設置の形態	私立	※ 国立 公立 私立 のうちいずれかを記入してください。
大学・短期大学・ 高等専門学校名	エリザベト音楽大学	
所在地	〒730-0016 広島市中区鞆町4-15	
設置者名	学校法人エリザベト音楽大学	
学長等の氏名	中村 英昭	

取組期間	平成21年度～23年度					
取組名称 〔全角30 字以内〕	五	線	譜	か	ら	電
	子	ポ	ー	ト	フ	ォ
	リ	オ	へ	の	転	換
	に	よ	る	キ	ャ	リ
	ア	支	援	教	育	

単独・共同別	単独	※ 単独・共同 のうちいずれかを記入してください。
共同申請の場合の共同先の大学等名		

ふりがな	かわの ゆうじ	所属部署名 及び職名	学長補佐（教授）
取組担当者	川野 祐二		
電話番号	(勤務先) 082-221-0918	(自宅又は携帯電話) 090-5694-6704	
FAX番号	082-221-0947		
e-mailアドレス	kawano@eum.ac.jp		

ふりがな	えんどう あきみ	所属部署名 及び職名	学事部次長
事務担当者	遠藤 秋実		
電話番号	(勤務先) 082-221-0918	(自宅又は携帯電話) 090-9501-5997	
FAX番号	082-221-0947		
e-mailアドレス	gakumu01@eum.ac.jp		

取組の概要【400字以内】	※半角数字、アルファベットに限り0.5字として計算してください。
音楽大学では芸術の個人指導が教育の中心にあり、在学中音楽に没頭している学生に、入学時から社会人として巣立つための教育が不可欠である。本取組は、正課及び課外教育（活動）の両面で、学生が就業の動機付けを行うと同時に学士力を培うことを目的とする。学生は学習、音楽、ボランティアなどの諸活動を電子ポートフォリオに記載して振り返りを行う中で、学習意欲・キャリア意識を育成し、コミュニケーション能力を高める。教職員も学生に対する指導、励ましにこれを活用し、「共に学ぶ心」を双方が養う。電子ポートフォリオと連携した学生教育支援システムを構築し、学生自らが学びの可視化に有用なツールとする。そのポータルサイト及び電子メール配信で就職情報を学生に伝え、卒業生にも配信可能なシステムとする。全体として電子化を推進しつつ人的個別対応をも手厚くし、地方小規模音楽大学ならではの学生が主体的に学ぶ学士力向上を目指す取組である。 （文字数：400字）	

1 取組の趣旨・目的・達成目標 [申請書類等作成・提出について P. 4 参照]

・取組の趣旨・目的 (学士力の確保や教育力向上のための取組か。)

本取組において、電子ポートフォリオと連携した学生教育支援システムを構築し、学生は学習、音楽、ボランティアなどの諸活動の記録を記載し、振り返りを行う中で、学習意欲・キャリア意識を育成し、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決能力等を培い、従来の音楽大学にない学生・教職員が一体となった主体的な学びの実践を行うことを目的とする。

・達成目標 (明確な達成目標となっているか。)

本取組では、音楽活動が学業及び生活の中心に置かれ、就業意識が希薄な音大生に対して、電子ポートフォリオに日常の諸活動 (各自が日々練習・習得した楽曲名を含む) の記録と振り返りを行う中で、就業を動機付け、学士力を培う。担当教職員は継続的に学生の指導、励ましを行うことを通じて目標達成の状況を把握し、卒業時に全員の進路を確定することを目標とする。

2 取組の具体的内容・実施体制

・取組の具体的内容 (目的・達成目標に有効な具体的内容となっているか。)

電子ポートフォリオ及び学生教育支援システムの活用は、学生は振り返りを行う中で主体的に学びの意欲を高め、キャリア意識を育成し、担当教職員は学生情報を共有し、学生指導及び保護者との連携にも活用可能となる。学生の希望の多い教育職分野の求人を含む就職情報を電子メールで提供し、就職支援講座の開設も合わせて、多方面から目的達成を図るものである。

・取組の実施体制 (具体的な実施体制となっているか。)

学生に対する就職支援に関しては、法人理事会及び学長をはじめとする教学部門においても推進すべき課題として重要視している。学長補佐及び学生生活センター長が中心となり、学生生活・就職担当職員が協力して本取組に不可欠な電子システムを構築し、初年次教育を担当する教員、学生のクラス担任 (教員) とともに連携して、本取組を全学的に実施する体制作りを行う。

3 取組の評価体制・評価方法

・取組の評価体制 (具体的な評価体制となっているか。)

本取組の目的達成のための日常的な評価は、学生のクラス担任教員及び担当職員がパーソン・ツー・パーソンの関わりの中で実施され、適宜軌道修正も行われる。全学的な視点での評価については学生生活委員会が実施し、学生及び教職員に対するメールアンケート調査及び面談調査等により詳細な分析を行い、改善計画を大学協議会に提案する体制となっている。

・達成目標に対する達成度についての指標 (具体的な指標となっているか。)

本取組に採択後、全学的な学生支援システム及び学生に対する電子ポートフォリオの構築を1年半以内に完成させる。その後学生が電子ポートフォリオに入力して教職員との指導に活用する割合を、当初の50%前後から完成年度末までに95%に上昇させる。電子メールによる就職情報の配信に関しては、完成年度には完全実施の体制を整備する。

4 取組の実施計画等

- ・実施計画（具体的な実施計画となっているか。）

初年度には学生の主体的な学びの可視化ツールとなる学生教育支援システムを構築し、他大学の電子ポートフォリオのシステムの調査・検討を行う。就職支援講座を開設し、次年度以降も継続する。2年目には電子ポートフォリオ及び就職情報メール配信システムの整備を行う。3年目には構築したシステムを最大限に活用して教職員が一体となり本取組の目標達成を目指す。

- ・財政支援期間終了後の展開（具体的な展開となっているか。）

学生に対する就職支援に関しては、法人理事会より財政支援が約束されており、本取組の財政支援期間終了後も、取組の達成目標の更なる向上を目指して、全学をあげて継続的に本取組を推進し、学生のキャリア意識及び音楽大学の学士力育成を継続的に図るものである。